

# がん専門医に聞く

富山労災病院 外科医師

むねもと まさよし  
宗本 将義



H28 年建替予定 新病院イメージ図

## － 大腸がんについて（治療編）－



今回は、大腸がんの検査、診断についてお話ししました。今回は大腸がんの手術とその先にある抗がん剤による化学療法について説明します。

ごく「早期のがん」に対しては内視鏡的治療が可能な場合があります。その際には開腹手術を必要とせず、早期の退院が可能です。「内視鏡的に切除不可能とされた“がん”」に対しては手術が必要となります。場所、大きさによっては腹腔鏡手術が可能です。腹腔鏡手術は開腹手術と比較すると傷の大きさは小さく、入院期間の短縮も可能です。しかし、場合によっては開腹手術に移行することもあります。開腹手術はやはり、傷の大きさは大きくなります。痛みがひどいような印象はありますが、麻酔科の先生の鎮痛処置により思ったほど痛くないという人も多数おられます。

入院期間は平均すると腹腔鏡手術では約 2～3 週間、開腹手術では約 3～4 週間となっております。食事開始は 5～7 日目より開始しています。

手術により悪い部位を切除したらその結果をもって「病期」というものを決定します。「病期」というのはがんの進み具合のことです。この際に進んでいるがんと診断された場合や、大腸がんが（転移巣も含め）体内に残っている可能性のある場合は手術のあとに「抗がん剤による化学療法」を行うことが通常です。

やはり「抗がん剤」というと、体調がすぐれなくなったり、吐き気、脱毛等の副作用が強い印象を持ちがちです。しかし、ここ近年は副作用に対しての薬剤が進歩し、倦怠感、吐き気などの副作用はだいぶ抑えられるようになってきました。また、「大腸がんの抗がん剤」には数種類の薬剤が選択でき、それらを組み合わせて個別に治療方針を考えます。

ここ数年は特に抗がん剤の進歩が進み進行がんでも生存期間がかなり延長してきております。また、分子標的薬という数種類の薬剤も出てきており、それにより抗がん剤の上乗せ効果も認められています。今後も新しい薬剤がどんどん出てくる予定であり生存期間ももっと延長することが考えられます。しかし、抗がん剤治療はやらないに越したことはないので、早期に発見することが必要です。

発行 : 独立行政法人労働者健康福祉機構富山労災病院 地域医療連携室

富山労災病院だよりは、当院ホームページにも掲載しています。是非ご覧ください。

連絡先 0765 (22) 1354 (地域医療連携室) Fax : 0120-935-631 (フリーダイヤル)

富山労災病院だより「8月発行」の表紙の病院写真の案内に誤りがありました。「移転予定」となっていますが、正しくは「建替予定」です。訂正とお詫びを申し上げます。